

砺波市健康プラン21(第2次) の中間評価について

砺波市では国が掲げる健康日本21の地方計画として、平成25年3月に「砺波市健康プラン21(第2次)(平成25年度~34年度までの10か年計画)」を策定し、生活習慣及び社会環境の改善を通して、がん、循環器疾患等の生活習慣病を予防し、これらにより健康寿命の延伸を目指しています。中間年にあたり、これまでの活動の成果と課題を整理し、今後の対策に反映させます。

1 計画の基本目標

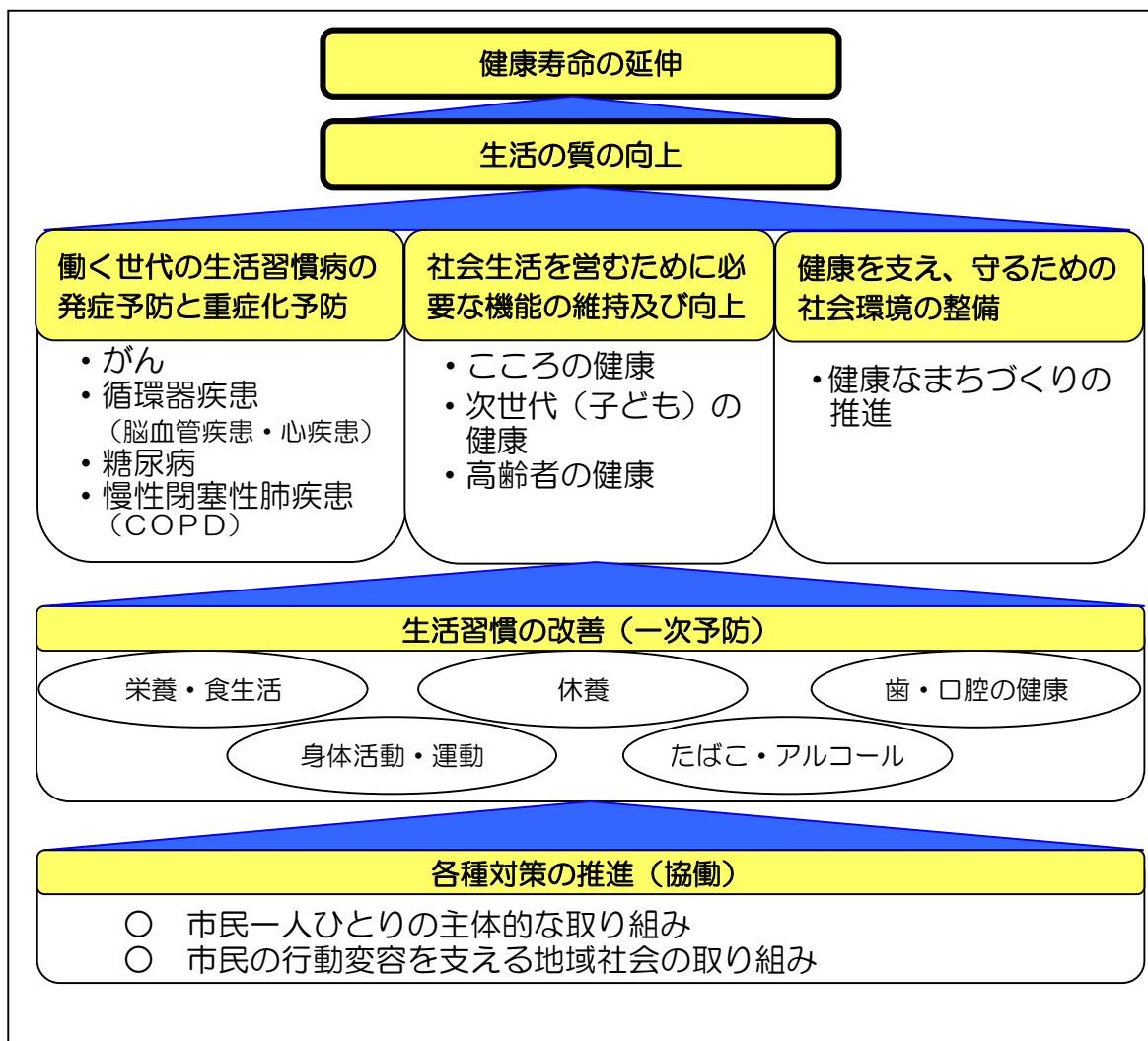
(1) 健康寿命の延伸

単に平均寿命の伸びを重視するだけでなく、介護を要しない状態で生活できる期間(健康寿命)の延伸を目指します。

(2) 生活の質の向上

疾病や障がいの有無にかかわらず、すべての市民が、生きがいや幸せを実感できるまちづくりを目指します。

■砺波市健康プラン21(第2次)の概念図



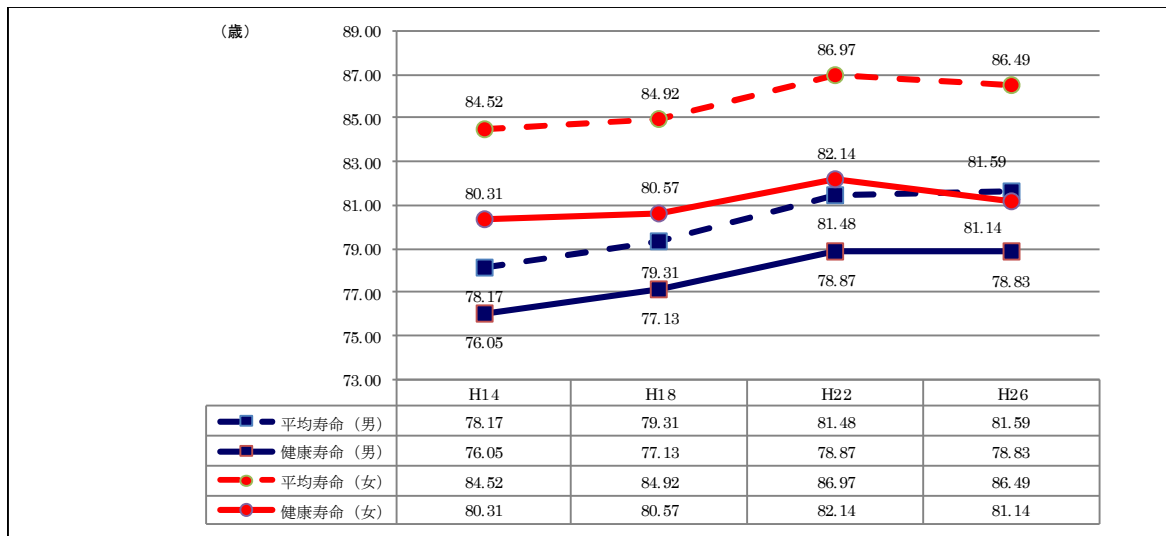
2 健康寿命の延伸状況

資料：健康センター試算

		基準値 (平成 22 年)	中間値 (平成 26 年)	26年-22年 の増減	目標
男性	平均寿命	81.48 歳	81.59 歳	+0.11 歳	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加
	健康寿命	78.87 歳	78.83 歳	-0.04 歳	
女性	平均寿命	86.97 歳	86.49 歳	-0.48 歳	
	健康寿命	82.14 歳	81.14 歳	-1.00 歳	

■男女別平均寿命・健康寿命の推移

資料：健康センター試算



本市の平成 26 年の健康寿命は男性が 78.83 歳、女性が 81.14 歳であり、目標は達成できませんでしたが、健康寿命は長期的にみると伸びています。

健康寿命とは・・・健康上の問題で日常生活が制限されることなく、自立して生活できる期間のことで、用いるデータや算出方法により値が異なり、国や県は「国民生活基礎調査」結果、市では「介護保険情報」を用いた算出のため、市の健康寿命を県や国と比較できません。

3 取組項目に対する達成状況（抜粋）

項目	市			
	基準値 平成 23 年度	中間値 平成 28 年度	目標	達成状況
がん検診受診率				
胃	21.5%	21.3%	40%	👉
肺	39.8%	36.1%	50%	👉
大腸	26.6%	26.7%	40%	👉
子宮頸部	41.3%	46.6%	50%	👉
乳 (女性)	45.8%	50.6%	50%	👍

・がん検診受診率では、目標値 50% に達したのは、1 項目（乳がん）でした。

項目	市			達成状況
	基準値 平成23年度	中間値 平成28年度	目標 平成29年度	
メタボリックシンドロームの該当者の割合 (40～64歳) 男性	30.8%	26.5%	23.0%	↘ ↗
女性	8.8%	9.0%	6.5%	
(65～74歳) 男性	29.5%	30.5%	22.0%	↘ ↗
女性	14.4%	12.4%	11.0%	
メタボリックシンドローム予備群の割合 (40～64歳) 男性	14.6%	18.1%	11.0%	↘ ↘
女性	4.8%	5.8%	3.5%	
(65～74歳) 男性	14.0%	14.7%	10.5%	↘ ↘
女性	4.1%	5.9%	3.0%	
特定健康診査受診率	58.5%	60.7%	65%	↗
特定保健指導実施率(終了率)	22.2%	62.5%	60%	👍
40歳代における進行した歯周疾患を有する者の割合 男性	47.3%	55.7%	25%	↘ ↘
女性	38.8%	48.8%	25%	
慢性閉塞性肺疾患(COPD)という病気を 知っている者の割合	19.7%	25.7%	80%	↗
ロコモティブシンドロームを知っている者の割合	23.0%	40.1%	80%	↗
運動習慣者の割合	34.9%	33.6%	45%	↘
運動機能低下の見られる高齢者の割合	7.3%	6.6%	減少	👍
就寝時間が21時までの子の割合	82.1%	82.6%	増加	👍
肥満傾向にある子どもの割合	3.1%	4.5%	減少	↘
妊娠中の喫煙率	1.4%	2.1%	0%	↘
妊娠中の飲酒率	0.5%	1.8%	0%	↘

達成状況

👍	目標値に達した
↗	目標値に達していないが、改善傾向にある
↔	変わらない
↘	目標値に達しておらず、改善の余地がある
-	評価不能

4 まとめ（後期プランに向けて）

（1） プランの全体像の評価

◇40～64歳のメタボリックシンドローム（女）及び予備軍該当者（男女）の割合、40歳代で進行した歯周疾患を有する者（男女）の割合が上昇＜悪化＞傾向にあり、その改善が課題です。

◇生活習慣病に影響を及ぼす市民のライフスタイルでは、特定健診・特定保健指導の受診率、就寝時間等良い生活習慣を有する幼児の割合は高いが、がん検診の受診率、女性の飲酒率、妊娠中の飲酒・喫煙率、良い睡眠習慣を持つ人の割合には改善が必要です。慢性閉塞性肺疾患（COPD）やロコモティブシンドロームを知っている者の割合が増え、市民の健康意識が上がってきているが、運動習慣のある者の割合が増えていない、妊娠中の喫煙率・飲酒率が上昇するなど知識があっても実践に繋がらない人や健康に関心のない人が相当数いると考えられます。

（2） 後期プランにおいて目指す方向性

◇健康寿命の延伸を目指し、健康に関心はあるが実践に結びつかない人や、健康に関心がない人に向けて、健康づくりに取り組むためのきっかけづくりのための働きかけを一層工夫していきます。

◇若い世代からの予防が重要であり、特に働く世代に向けた取り組みを強化するために、職域（職場・企業）等とのさらなる連携を構築していきます。



三世代ふれあいクッキングセミナー



がん検診会場で検診の協力